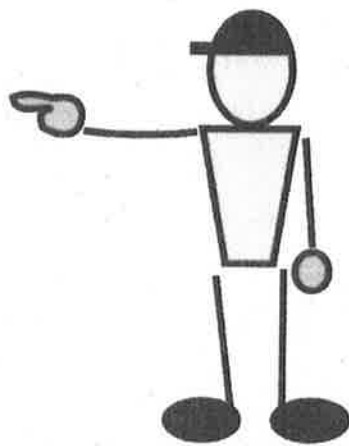
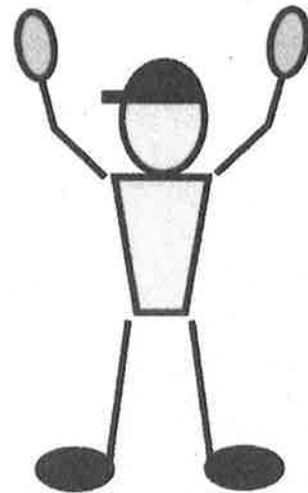


# 女子フットベースボール

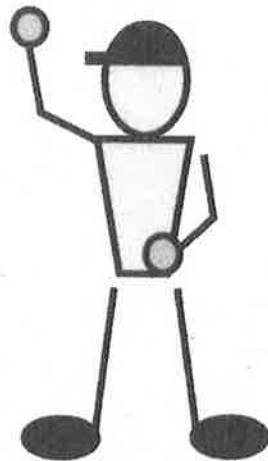
## 審判員の役割



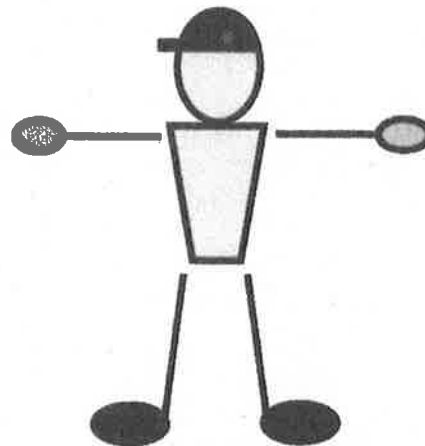
フェアを指差す



両手を上げて広げる



右手を上げる



手を水平に広げる

関東フットベースボール連盟



## 1、はじめに

フットベースボールはソフトボールから生まれたスポーツであるから、そのルールはソフトボールのそれとよく似ている。しかし、フットベースボールには「狭い場所で、短時間にできる」という考慮と「コンビネーションプレー」という魅力をその特色とする独自のルールがある。これらの正しい理解なくして、フットベースボールの審判はあり得ない。

## 2、審判員の構成と任務

主審（プレートアンパイアー）と塁審（ベースアンパイアー）で構成される。走者の離塁監視の必要上、塁審は3人制を原則としている。各審判員の任務で野球の審判と特に違点は次のとおりである。

- (1) 場所が狭く、選手の交錯が激しいので、審判員は常に低い姿勢に移り、ダイヤモンドの内側には、努めて立入らないようにしなければならない。
- (2) 走者が塁上にある時は、走者の離塁反則を監視することが第一の任務である。  
そのために、審判員は打者の足からボールが離れる想定位置と触塁中の走者の足を結ぶ延長線上に位置しなければならない。

## 3、審判員のゼスチャーとコール

### (1) プレイボール

右手を高く上げて、手のひらを前に向けて開き、「プレイボール」とコールする。  
試合開始のときだけ「プレイボール」、試合再開のときは、「プレー」だけでよい。

### (2) キック開始の合図

打者が、キック・ボックスに入り、ホームベースの上にボールが置いてあり、キャッチャーが正規の位置に着いたのを確認して笛を吹く（キッカーの足に注意する）。

### (3) フェアボール

審判員は、ライン際のボールを必ずライン上に出て追い、フェアグラウンドの方向に腕を伸ばし「フェア」とコールする。

### (4) ファウルボール

審判員は、両手を開いて高く上げ、「ファウルボール」とコールする。ライン際の打球は追って近づきよく見極める。

### (5) セーフ

低い姿勢で両手の手のひらを下に向けて、体の正面で両腕を斜め前に広げて「セーフ」とコールする。その時の体勢によっては片手だけでもよい。

### (6) アウト

確認したのち、右手をにぎり、頭より高く上げ、腰を伸ばして高い姿勢で「アウト」とコールする。

(7) 守備妨害

右手で指さし「ランナーアウト」とコールする。

(8) 走塁妨害

ア、プレーが行われている走者の場合は、両手を高く上げて、「走塁妨害」とコールする。(ボールデット)

イ、プレーが行われていない走者の場合は、妨害した野手を右手でさして「走塁妨害」を確認する。(ボールインプレイ)

(9) 安全進塁権

片手を頭上に伸ばし、指で、与えるベースの数を示す。

(10) 積極進塁

ア、ホームベースへの返球が、ベースタッチより走者の進塁のほうが早い場合、走者を右手で指さした後、「セーフ」とコールする。

イ、ホームベースへの返球が、ベースタッチより走者の進塁のほうが遅い場合、走者を右手で指さし、もどるべき塁へ指を移動させながら「ランナーバック」とコールする。

(11) タイム

両手を開いて高くあげ「タイム」とコールする。

(12) ゲームセット

「プレイボール」と同じシグナルで「ゲームセット」とコールする。

何れにせよゼスチャーとコールは、ボールやプレーを確認した上で、常に同時に行われ、観衆にたいしてもはっきりわかるように、明確でなければならない。きわどい判定ほど大きなゼスチャーとコールでその自信の程を示さなければならない。一方、あまりにも明白な判定については、言動はやや控えめな方がよい。

## 4、試合前の審判員の任務

審判員は試合に先だって次のような準備を行う。

(1) 試合場・用具の点検

天候状況、試合場内外の条件、コート区画ライン、ベースの設定、地面の状態、使用球などについて、じっくり点検し、万全の準備を整える。

(2) 試合前の打合せ

審判員は、試合場の事情に即応したグラウンドルールと、その試合で用いる相互の特別サインについては、慎重に打合せなければならない。ことに審判員相互のサインについては、打球の「フェアかファウル」「ダイレクトキャッチか否か」「打者に触れたか否か」、審判上の明らかな誤りに関するものなどが含まれる。このサインは、審判当事者以外には絶対判読できないもので、しかも簡単なものでなければならない。

### (3) グラウンドルールの設定

グラウンドルールは詳細にわたって規定し、試合前にその旨を徹底させなければならない。特に、打球や送球が人や物にブロックされた場合の処置については、具体的に規定しなければならない。

### (4) オーダー表の交換と攻守順の決定

※ルール集参照

審判員は両チームのベンチ前に赴き、背番号、氏名を照合する。

### (5) 試合前の練習

試合開始前になったら、1塁側のチームから5分間ずつのシートノックをさせる。

### (6) 試合開始前の挨拶

「集合」の合図で、両チームの全選手を打者席の両外側に整列させ、試合開始の挨拶を交わす。この動作は、終始、きびきびしたものでなければならない（全て、集合・解散は駆足で行う）。

- ・ホームチームが1塁側
- ・組合せ番号の早い（若い）番号が1塁側
- ・試合開始のときは主審が「〇〇対〇〇の試合を行います」と宣言し、相互に一礼する。
- ・試合終了のときは、主審がゲームセットを宣告し、相互に一礼する。その時、勝ち・負けと点数は主審に一任とする。
- ・試合開始・終了の挨拶体形は両チーム主将を先頭にホームベースから整列し、審判は、フェアグラウンドに向かい右側から1塁・主審・2塁・3塁の順に整列する。

## 5、試合の進行

### (1) 試合の開始

主審は、守備側のキャッチャーがキャッチャーサークルに入ったら、「プレイボール」の合図をし、試合開始の笛を吹く。

### (2) 攻守の交代

攻撃側が3人アウトになるごとに攻守を交代する。交代は迅速に行うようすべての審判員は上手くリードする。

### (3) 選手交代の通告 ※ルール集参照

### (4) 試合の中断と再開

審判員は誰でも、プレーが進行中でない限り、必要に応じて「タイム」を宣告して試合を中断させることができる。ただし、一旦中断した試合を再開させることができるのは主審による「プレー」の宣告だけである。

#### 1 「タイム」を宣告する必要条件

- ア、天候や、地上の外的障害が発生してプレーの進行ができない時。
- イ、ボールがボールデットの状態にある時。

ウ、審判員がチームに何か注意をする時。

エ、審判員同士が協議する時

オ、チームから、プレーの進行に差し支えのない条件の下、「タイム」の要求があった時などである。

#### (5) 試合の終了

試合が終了または中止した時は、両チームを再び試合開始の挨拶時の体形に集合させ、主審が「ゲームセット（試合が成立し勝敗が決した場合）」「ノーゲーム（試合を中止した場合）」の何れかを宣告する。

## 6、主審と塁審の任務と権限

### (1) 主審

ア、主審は、試合開始前の任務の他に、試合中は捕手の守備を妨げない範囲に位置して、試合全般にわたる適切な運営のための全責任を負う。

イ、主審は、試合開始から終了までの進行係としての任務を持ち、ルール違反の選手に退場命令を下し、没収試合を宣告することができる。

ウ、主審は、打者のプレーについて判定する。その主なるプレーは次のとおりである。

- ・打球がフェアかファウル

- ・フライの打球が合法的に捕球されたかどうか

エ、主審は、本塁上のすべてのプレーについて判定する。

オ、主審は、2塁の塁審が塁にいない場合は、2塁走者の離塁を監視し、反則を判定する。

カ、主審は、3塁の塁審がいない場合、または打球を追って塁を離れた場合は3塁上のプレーを判定する。

キ、主審は、1塁または3塁の塁審が打球を追って塁を離れた場合、打者走者の触塁や走者のフライ打球に対するタッチアップを監視する。

ク、主審は、2人以上の走者が3塁・本塁間で挟まれている場合は、本塁に近い方の走者について判定する。

ケ、主審は、2人以上の審判員が同一プレーに対して食い違う判定を下した場合は、最終的な判定を下す権限を有する。

コ、主審は、攻守交替の時、その回の得点を計算して、記録係に報告する義務がある。

### (2) 塁審

ア、塁審は、絶えず野手や走者（打者走者を含む）の位置や動きに注意して、その妨げとならないようにし、走者についてのすべてのプレーを判定する。

イ、塁審は、走者に対して主として次のような判定を下す。

- ・走者の離塁反則について

- ・塁上のフォースプレーおよび塁間を含むタッチプレーについて
- ・守備妨害または走塁妨害について
- ・走者に対する安全進塁権の決定と指示
- ・走者（打者走者を含む）スリーフット外逸走について
- ・走者（打者走者）による塁の空過、1塁通過後直ちに戻ったか否か、フライ打球の場合の走者のリタッチアップなどのアピールプレーについての裁定
- ・フライが打たれた時、その方面の塁審は、それが直接捕球されることがはっきり予測される場合を除き、必ず追って、野手が直接捕球したかどうかを確認する。
- ・絶えずベースの固定を監視する
- ・試合開始前の塁審は、所定の位置で両手を後ろに組んで立つ

## 7、判定宣告の基準と姿勢

審判上の判定は、ふつうボールが達した時に下されるものであって、ボールが届かない時は、判定の結果を示すゼスチャーやコールをしてはならない。一般にプレーの判定には、時間と空間という条件がある。以下、代表的なプレーに対する判定の基準とそのための動作について要約する。

### (1) フェアボールかファウルボールか

打者が打った瞬間は「フェアボール」とし、打球がファウル地域にころがっても、直ちに「ファウルボール」を宣告してはならない。打球がファウル地域でとまるかその地域で野手かその他、人や物に触れた時、および1・3塁のベースの角を、触れないで外側を打球が通過した場合に宣告する。なお、ライン上で野手に触れた打球はすべてフェアボールである。

### (2) ダイレクトキャッチかどうか

主審は、きわどいダイレクトキャッチについては、その近くの審判の助けをもとめて判定を下す。確認できないのに、打者アウトを急いで宣告してはならない。

### (3) フライの捕球と走者のタッチアップ

走者のタッチアップが予測される場合、打球が野手の身体に最初に接した瞬間を基準として、走者の離塁の速いか遅いかを判定する。走者の離塁が、捕球されたボールが最初に野手に身体に触れたと同時にあれば合法的である。

### (4) フォースプレーとタッチプレー

フォースプレーは、その場所よりやや離れた地点で高い姿勢のまま判定したほうがよい。タッチプレーは、なるべくその場所に近寄り、低い姿勢で判定したほうがよい。

判定の宣告については、プレーの成立と同時に行うのが原則であるが、他に走者がある場合のタッチプレーについては、やや早めに宣告する。セーフをアウトにすることはあってはならないが、アウトをセーフにすることは不合理ではない。

#### (5) 守備妨害か走塁妨害か

野手と走者が接触した場合、守備妨害か走塁妨害か判別しにくい場合がある。こういう場合は、守備優先の原則にもとづき、守備妨害を適用する。

#### (6) 離塁反則によるランナーアウト

このケースが発生したならば間髪入れず、大声で「ランナーアウト」を宣告しなければならない。

#### (7) アppealプレーの判定

Appealプレーの対象になるケースでは、Appealがあるまでは、ゼスチャーもコールもしてはならない。Appealはインプレーの状態（または、その状態に戻したあと）有効であり、その方法は、動作又は言葉によって表示されなければならない。審判員は、このような条件が備った時、初めて裁定を下すのである。

### 8、審判員の位置と移動

審判員は、正確な判定を期すため、一定の方式にしたがって、臨機応変にその位置を移動しなければならない。一般的な注意事項をあげれば次のとおりである。

- (1) いかなる場合でも、ボールから目を離したり、ボールに背を向けたりしてはならない。
- (2) ボールや走者を後方から追うのではなく、むしろ迎え込むという態度で位置し、移動しなければならない。
- (3) フォースプレーかタッチプレーを予め頭に入れ、送球と直角のコースで捕球想定位置にたいしてそれぞれの所定の位置にすばやく移動する。
- (4) 走りながらゼスチャーをしない。待ち受けてジャッジする。

### 9、抗議の処理

フットベースボールでは、監督・当該選手のみが、ルールの解釈と適用について、Appealプレーと同じ時期に限り、抗議することができる。抗議を受けた審判員は、その内容がルールの解釈と適用に関する場合に限り判定理由を説明しなければならない。

なお、疑義がある場合は、他の審判員と協議するが（ゼスチャーを示してはならない）、応答は、当該審判員がしなければならない。しかしながら、一般の抗議の中には、審判員の判定に関するものが多い。これらは原則として無視すべきであるが抗議する者にたいしては権威を誇示することなく丁寧な態度でしかも簡潔に判定の正しさを、自信を持って説明する方がよい。

審判員は、相互にその立場を尊重し合わなければならない。なお、ルールに規定されていないプレーが生じた場合は、審判員が協議をして最終的には審判部長が判定を下さなければならない。





# 主役は

# 子ども達



関東フットベースボール連盟

(平成25年9月) 発 刊